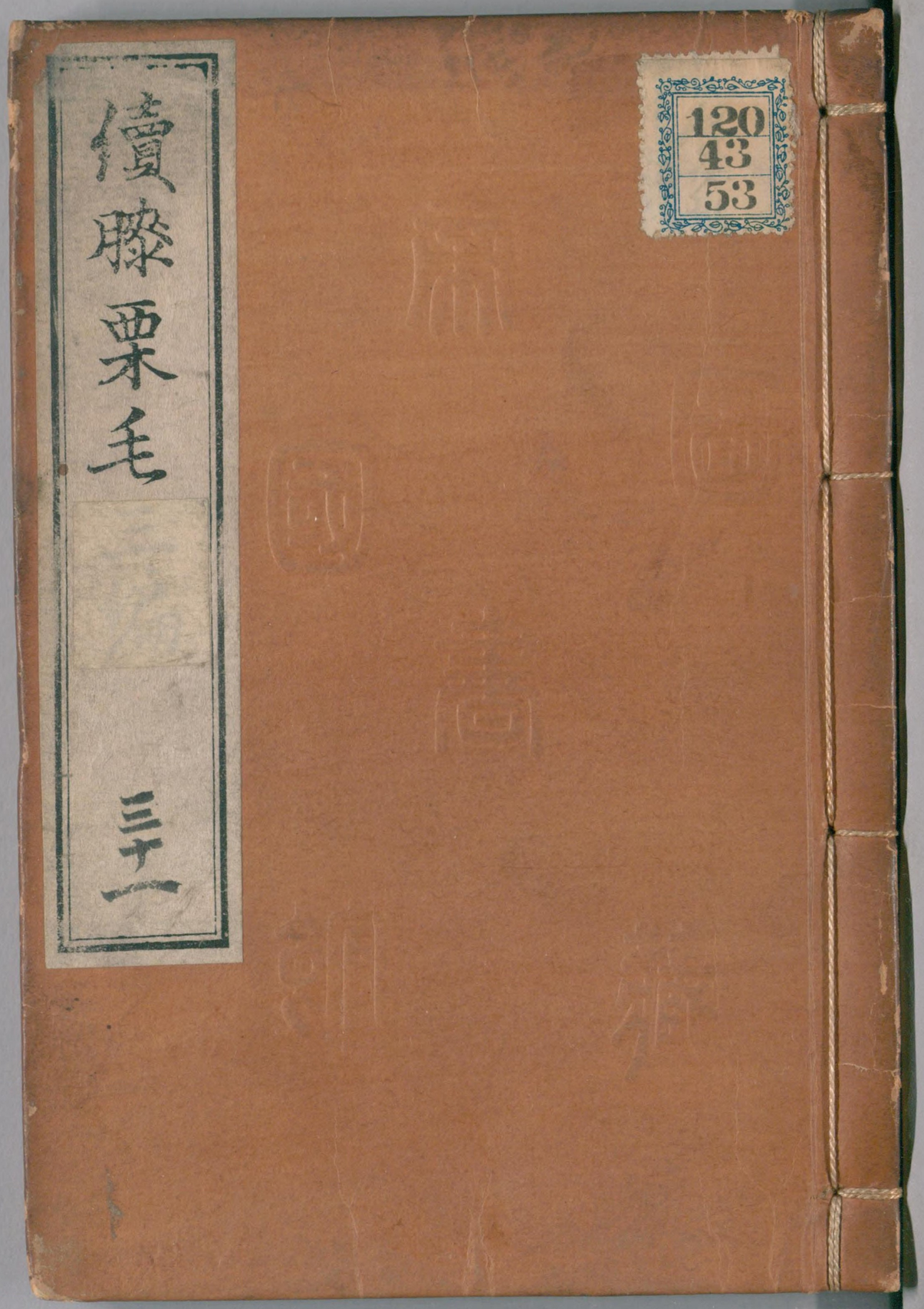
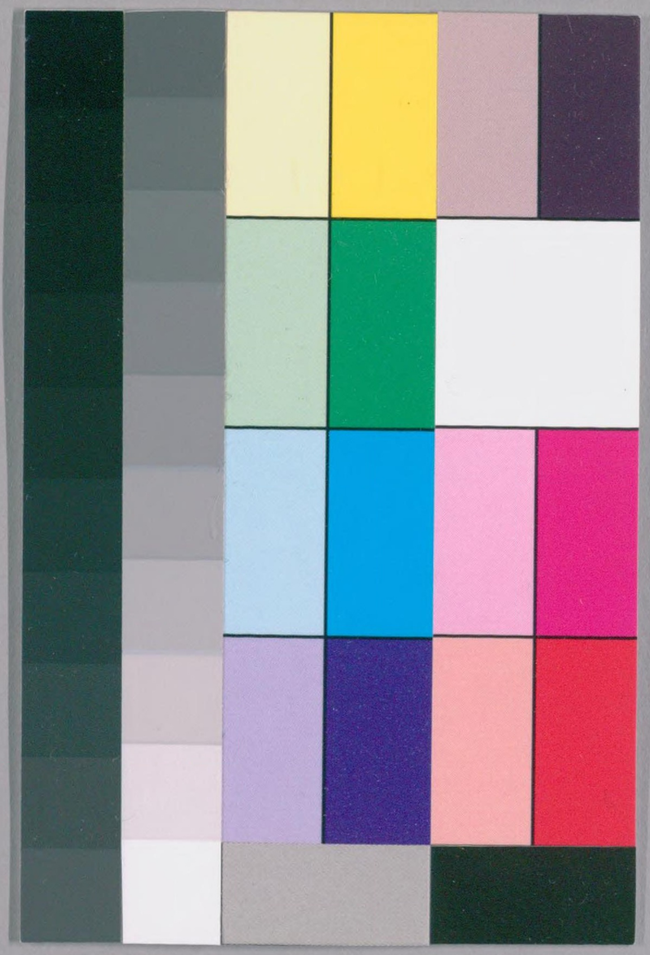


120
43
53



国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

續膝栗毛七編

上

120
43
53

東京圖書館

和書門　小說類　二六函　一二架　九一號　四三冊

53 120 6

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

TOKIO LIBRARY
SCANNED BY MOMBUSHO

明治十年交換

續膝栗毛七編上

膝栗毛仮初ながら

あらまし

二本大阪および西國まで義

通して馬少しも歩まず

枝葉路をさまよふ天福

駄賃の事をはじめとして

もろもろの

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

向ふ附出し小附をこゝろ
化者がおんの酒落どう
義経主従お馬の貫目
法皇のお茶ふで雑巾野宿
かゝる牧士川もこゝろ
年乃鞭おてどもおしの追売屋

道中膝栗毛 八編 追刻

酒馬御免むてのふこゝろ
そゝらか次事例のごとく

文化丙子春　十返舎一九識

後編紀行 氣乃毒狸館 十返舎著 全三冊 追刻

前後編の画様ハ当時流行の割ゑと記せし雷信の一曲と世ちがいあるようなれ共、前後編ハ一続の出板なれバ、ゑ師ハ同人ゆへ、ゑ様ハ同じ筆意なり。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

續膝栗毛八編

十返舍一九著
全二冊 追出

岐曽路街道 續膝栗毛七編

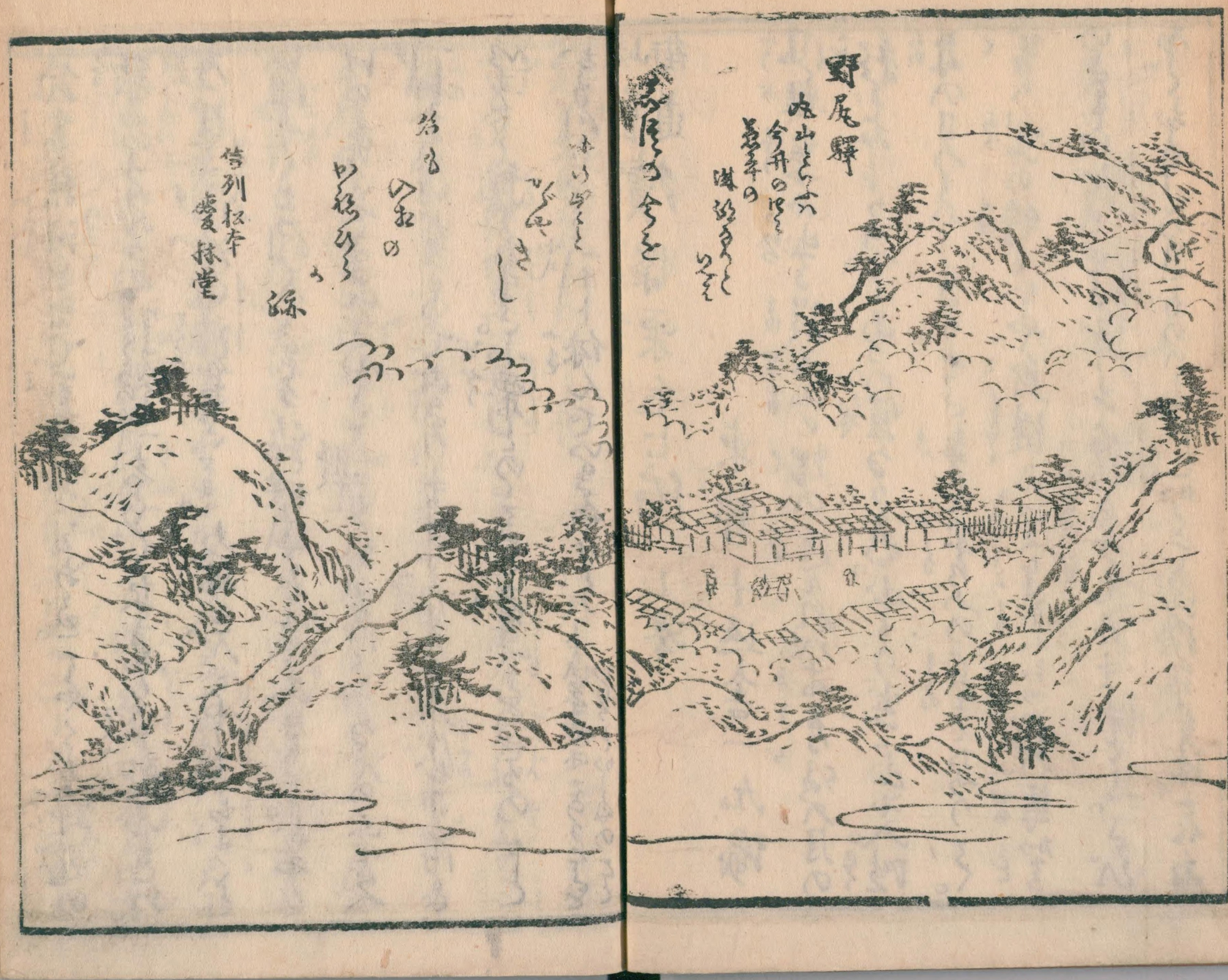
十返舍一九編

上巻

東都

風雅集ゐる嵐入山の燈の消なれば木芽萌出月の
影そみどりなるあらし哉。山ふかう雪こゑ入陸
奥の夏のほとゝぎす。なくや五月雨をあつめて
早し最上川。芭蕉翁

苔の衣の袖とかや剣豪。あしらひ。ハテ
のさとりとも。まるぼうずして。法衣
をもまとはぬのハあらじかし。


野尾驛

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

弘法ゆかりの。[illegible]なき寺あるこゝを彷徨ふ。
乃至は祐筆の計策ヤヨヘ。あるひ
[illegible]ていろ。ちやをのまれて。
けの業こそがおぎんさアコウおもひ
おそろしの業こそのでおぎろうまさアこそ
[illegible]ろおいろいまさ小栗どのくるそと考て云せるのうと
おもひさ[illegible]チト休んでいまやかしらと
ふまこそのかぐら沢本ちてこゝろ
のくとあつ発ちく発とうく
多多う国の坂東の寺社ひろもの
繭でよろうたへう[illegible]まの門おかり
吉祥寺の一年の市祥寺の七十二度の市
市原乳とおぎ門ていまれをきて
やて一天地の容姉とやてまかく
陽明くおぎ門て日眠ぐ二角地
風ぐそう変飛が七ト弐り大息

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

稗が七十。某大根が弐百。稲穂が六十みをとおぢめて。
千株余の生樹木までも。言ひ出しまん〳〵七ツ年乃
間豊年のうたび。姓でこあく出揃ひ。
二階かさなるやうなしおぎりて。百姓氏子あ。七ツの祭
あるくやまをよろ小子共のすみあそびできこん風
まろ風こそ風。正月の時より。年の時すまでまろ〳〵
吉ろ此風をまち人ひ。その方氏子通るまで。又南東
夜戸の内。赫雅星こやして。雲の三百日を開き星りづる。

古の里ふあらおび。鹿癌癌疹ハまでうそうそうそ
しまりて。命長〳〵。癌高吉祥ぐ〳〵。
まろう。皆人が歌つて。まりや。おへまり
ぷくまろぐ。ハイちく〳〵。兎ふさんトの
ちやアまいりませ。だき負ろ。
ハインまハイ。まんぢうの負で。ぎんぢうの根ふ
牛唐

さまんやまでおぢいけまへんか。
とこへ女を手でおざるうさ[陥]おめへがこと
るさまそんぢをおへまで其るさ縁[陥]
ござるつてことアおぢやうだ。そとすゝこまつ
おぢるさあうさもしまへ。そのるが生[陥]
ぢよろうんご縁[陥]コリヤア子のそ。年のそ
かのぢそのほこまあうりて。ひどくおぢこと
るかも。国の年ぢやう。そ雑[陥]縁[陥]こうまるる。

かさく。持[陥]よそこれ。ひどく運[陥]のあ人ぢやさ[陥]
やうな縁[陥]ト以内るれまし[陥]ろうくの[陥]ア尚年よう六十まで[陥]。
安永年でおざるが。今までのおそれるやうだろでおざること。
さうさけ。七年まふ。そまふりかめよ。
櫛[陥]がはやるつて。ほつそなるがあのうんべき
[陥]コリヤ奇妙。そるてござふーてあまやまこまつ
女の事で雑[陥]義さつ事ささもあり[陥]
そどく。その外つこ持[陥]年のさ。森多まるめ人ぢ。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

おろゞ降出の往来を濡がら。旦那へのお
かゝあをめくも出てゐるさうゝいふ
いきる女ざまよ。おの川のをちよろ
ひやうさんやの後家つよ。又惚られて死ぬのいきのくらの
るがやぢ
もちあ申をさへがてさてがおりさ
ぐまぶかのごゐや。さ夜もふけ
おろ〳〵。おをともおん肥でいるうの
ちかさ時おろうう。それをもむじろう

そこうごろ〳〵年のようおまる人もめでたのさんまるの
あだこぶ。ぶろ〳〵育つて。今でおんちなる小彫ぢうへひろが川
さうゝそこ洗う祖人〳〵を主〳〵人の桐かかるこのざが。
あんでも今ごんこゝでゞ。そこてりこの相ハ。あかおき。
おもうゝおまうこと白ととて福もおまうまと白ら相ざ。
ア。めでゞれ人りさ〳〵そのの川かありがて人の門まこゝろ川さ
ふろうおそれこゝ六年の秋時分。その七年おこふ
ぶのつこ病気がおこるコリヤまあのふうなことでかゝる。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

いのち
かぎり命もおぶんなれどよ。そ用ようが
ねんもまこそまごおとうのうへ
ねんのこの一ムンま屋ぢなよりのして。きづかひ
まだ
まんまこの体をーてをせまをべれや二銭金サア
そうだんおやアおざんすんだ。ふーとのさわり
ちがさ。ごしんぞうやをコノ
ちへきさまりとおさくらうと
うさんす
形代かたちで難おうと拵まへて川へ
まいこの守れい私はけて。よく仕合さ
名のあんとういひやうぢ
ちやアねへ。
ぢ
ぢ
ぢ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

ぞふくまろと酒でも呑んと呑ごと附
各〻ふくはぐ〳〵仕度よろ〳〵
ゆくぞそ稲雀を逐うまも
一そまごくのおくごもさ
きく八ちうく〳〵ほかくのまをひきてまうらう
同つをまれぐもほくきうぞやそ去まき
まてそのよけてそ去んせまをぐん
てまきりとまこ
ぜ名呉をそうまそよのまる

いひおてさうく〳〵寝あやあるめへ〳〵
中あてうてエンヤト主多八伯も参ぐ。
ぞそ
旦那と番頭よなりていふおやア私今コリヤおり
ぐぬきの一そうそ今くらい先あまる旦那ぶ。
ー
叶根に口木のづいそさいつ去ふーて
明アア旦那ぐぞ〳〵きこ八〳〵只い
おぐうやをトこれうぐのまうく
ー
ぞ門こ海う馬こ〳〵

馬士
「おきゃくさんがきなさるのが、ちょいとまえ、ござりまして、
らせてうけたまわりましたが、今はおあきとみえまして、
おもうさまがござりまして、
身どもをよぶのをそのまに合せやくそくをやぶるなんと
やくそくをしてござりやして、
「アイ〳〵おきゃくさんがきなさるのが、ちょいとまえ、ござりまして、
まだござりませぬけれども、
士「ムヽ然らばくるまをとめろ。

男「アニ其の駄馬おせろうまるかのごとくまでもあふんなんぞおのうへ〳〵
猩馬でかけをのるめさまんざ駄賃をもろくおやア
六せんぺぞまるかのごとくまでもあふんなんぞおのうへ〳〵
のうの女ます
ト筆やの女はおかまひなさいまし、そのうちにはおかへりなさるゆく、あゝこの士
駄うちのせんとうきのそだくるをひきとるきのうまのかりてるまのくんとさろ時ぜろう
ぜんべ七つ分からはまるをれどまろうまこのごへるらやせぬ
よへヨウ〳〵ヤア〳〵ごの川のうこれをへ
ぐんこうぐんこう清んと
ト出もおそろしいおうまるのらんそろこせろうぎこのらろうはせろぎこのろ
屁つひぐる

弦るれや
馬士
善光寺
参り道

ふ乳のふさうを。うつてあるきやアがりやす。
（ふ乳＝牛）
鯛みるりてさりき聖尾でいきあつさぶ
（のよを）
よごもの。めぶぐせろうまのせてくまさろ。
（陰十二ナニクラモノ）（ちゃべル）
さろうのつゆ鯛おやア私人のさツレさそぶ
（小八）（陰）
さ
まるこも一尼おとてしぶ〳〵〳〵
（う九）
すつさそうんぶ幸鯛ごのち
（さ）
かーまみ あうで 唯さ
（陰）
法ひろひぶけるくさそうあおうくのてこそ。
ぶくこのる。まあり（陰）のあんだんあくぐうくまあり（陰）とうきそふゆそ。うり

ぶろあくぐ乳（陰）
づひるまべ〳〵さんぶぐらいもうへ。ぱるう
法母ろ私へ。ゴリやるのおろお私人やろま。
（ぱる）
てこまご引ろ（ぱる）おろへさう又おとて中せおぢる〳〵（陰）
（の神ろ）
さうぶ。ろめ不眠をまろぐ〳〵ひくうぶ。そ五でそふふ
のぶ（ぱる）まちもつうふ。おちろせそさ。中
女人可（陰）ぶろぶろあ。う奴ぱるをおろおろだをし。首がそぶ
うさそふあり人（ぱる）あんぶぐ〳〵。首がふろんぶぐ〳〵。の首が
さびままろ〳〵（陰）まれとぶ〳〵（ぱる）まるり世ます〳〵（陰）つりやく

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

ぞとくいつてまいりてござるつま文
ものまづるをもるいつさんはまと入りけ
るとそもそれござをさしてきうてるをひき
くまめへどうてそよるぐんものとさてきる
いのち
今がけござ。おまがおりとろござ。首がろんばるそん
ぶんやア。それの宿まで。ひおるがおりくもどふいく
とろ駄のうびがそぶう。そふおもへつせ
んござうとうそごもそれもいつるんこーもさ若
おやアおそくかめござうとうけちやア。ひどいう

ト書くそぶんよう二三年ひき出しござ。
陳
まごるをもるいつさんはまと入りけ
るとそもそれござをさしてきうてるをひき
くまめへどうてそよるぐんものとさてきる
いのち
今がけござ。おまがおりとろござ。首がろんばるそん
ぶんやア。それの宿まで。ひおるがおりくもどふいく
とろ駄のうびがそぶう。そふおもへつせ
んござうとうそごもそれもいつるんこーもさ若
おやアおそくかめござうとうけちやア。ひどいう

陳
陳
陳

ちの男ござあてこともろ名。陳
がる。そこまアいつござ。
ちくおりとろござう。そこまろふ。
ついぞござのこと。そろ宝くとまうまでござ
ひく。陳
まるをござ八まとう
ろうろ須永まござまる事。晩
そろくまり称。コリヤ長船大為まござ
そんろとをぬまをんが日ござんしそ。
ト書くそぶんよう二三年ひき出しござ。
陳
まごるをもるいつさんはまと入りけ
るとそもそれござをさしてきうてるをひき
くまめへどうてそよるぐんものとさてきる
いのち
今がけござ。おまがおりとろござ。首がろんばるそん
ぶんやア。それの宿まで。ひおるがおりくもどふいく
とろ駄のうびがそぶう。そふおもへつせ
んござうとうそごもそれもいつるんこーもさ若
おやアおそくかめござうとうけちやア。ひどいう

陳
陳
陳

ちの男ござあてこともろ名。陳
がる。そこまアいつござ。
ちくおりとろござう。そこまろふ。
ついぞござのこと。そろ宝くとまうまでござ
ひく。陳
まるをござ八まとう
ろうろ須永まござまる事。晩
そろくまり称。コリヤ長船大為まござ
そんろとをぬまをんが日ござんしそ。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

サアそやくやくそのうちに
（張）まろうんやアけまろそのうちに今ぢ門こそ
まろごろういめまりぬきこハほりへのうそのうち
もりそうにまろをまろうせしやまろ
そしてあ体ろ。るまのうまやとうろ
あぶぶれぐまこおつところんでもそうろう。
まるくまやまこへ気ヤさへてをよ
クア。まるくやりまでトをづるまろ

かけ出そうろうぐまろうろうまろとやまとく。
まろうりとづろまろうろぐ（張）ころりまろとやまとく。
あんまろうえまやまでて。尻がひよのうえ
てろう移ぺりまろうまがふしまろ
まろうくまろ（張）まろうまろ足がはよ（張）移へうト
きこハまろうくまろ
雑談をめまあよりのろまいくやばんなー移へろ
まど。
ろぶせん馬牛く（先）豆（先）腐屋のまままづくよ
（先）
首をかけ出をるめ
かくてはのままよろまろまろ。馬も

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

やサまるめてあんぎゃ（旅まんぎゃ）をあ（上）ぢ（持）ま（ま）
ゆりやものさ（伯）そのあとやサア（伯）あることだ。あ
あめこり（伯）ーさうん所ゑ（伯）ーイヤあんだらあ
所こり（伯）ーを稲や所こらいふやぎりやせあ
ク稼（伯）ンとーその少ゑ（伯）や所の。市村そぎ久
保役でりとーは志（伯）。ゆよいきことーくとが。
そ時そぢめて。あをやとらいふめ（サア）んをこと
ゑぐんだぢまぎんろ。普（ど）もがうゑ（伯）ーやま

普（ど）やをイヤその時。清村富平（清）帝とうの
待（まつ）ある（大分）めて。よんこりんぐめて出来ナ
男かり。そふまそろく悪人ぐのあんと
て。その侍（さうらう）には痛がまるめ（ハビル）ーきぐ（キム）
でその侍ぐろつ死をさけて。まてーは（ワザト）
こそりぢるく出来（アタ）あめて。侍をぐちま
そ全こをひろく普（ど）ぐ西へて。まそ人
ぢ。我とこび出来て。こりそくいふ狂言（きやうげん）ぐア

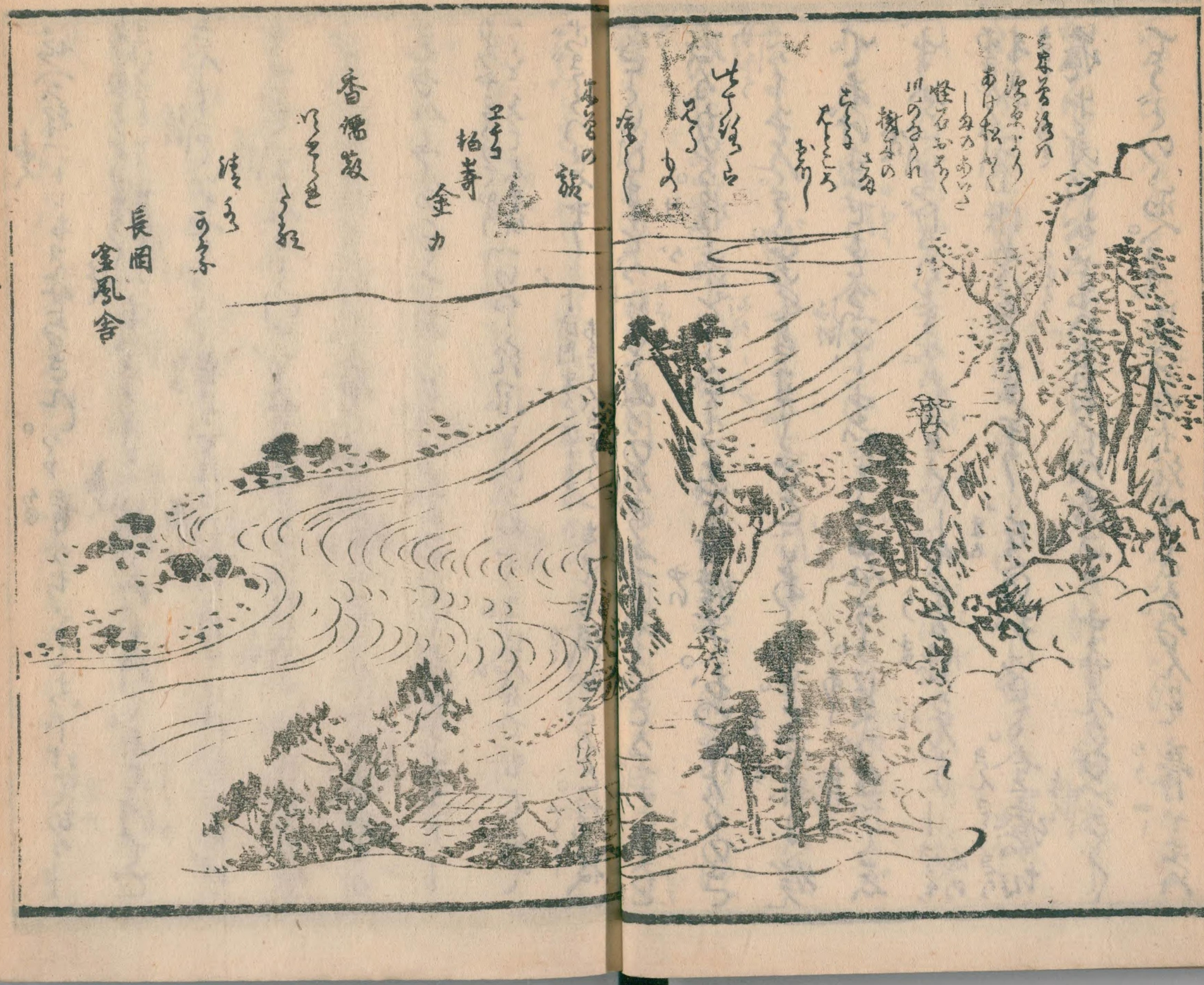
ろぐをやろうめづ字ゐ十字ハさちうのぶ
さげてあやまろうまりかるろうべ
結ハあいそこくぐそうう字十字ハ
ぐりうで。サアうせおをぴ。ゐぞもあさそ
まへとうおてぶち。そるまべ。おらくがいまこひま。る
とうまおうて。その男人ぐろめぐちわぐ
おんがうわぐるもりがとうりでぴくる
げやと。ゐぞもそをろうまぐこでも。サアへほんぬ

るぶおぐさんちいそろと行がいをろのぶ
ほろのろまぐ。おりろへおをるしでうう
ら。附ままこへさりまぐりこと口ぐぶぐぶ
移へろう。まぐこまふぶ口名へこそゐやこ
たろくしん。りよこまろのろこコリキ又ヨまとと
ハ。ろうこそろうめそろうう。おらもも口志ようる
ぶろり一こそんろう也一ぬよ。トやぐ
ふそろうぐ。女へおをうお出るされまーと
トこそんくゆくとんでかりてくる。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

旅人「ドレおまえ先へさんしてあるト。
男「ハイ〳〵。
旅人「アレ〳〵。
男「アレ〳〵。
旅人「アレ〳〵。
男「アレ〳〵。
旅人「アレ〳〵。
男「アレ

[illegible]

「ハイおまちどう　あげませ　ござい　おまんぐ
ろうそく女郎　ぐらいもおよびなさんせんらう
なるがござりかまうくさつ　かゝることは
「いんでせうがせ　おらくへ　ふるまふ
後のおもひ出さ　その心持が忘れでもあらば
まゝ　ふるまひ　仏事　婦女
「なるほど　ごもつとも　採薬使　そのまゝ
お寿くぐえだ。おのびるう　おらが
おらことだそぎんぐろうとばかりござり
イロイヨウカラ
おのこと。おまへ出　ませどもおまへさんが
トなさいちらぐきゆくやうなのへまろーてゐる
あのてござりまして三人ぐらゐまゐりまして
かゝるまゆくくまぐらくくそ仏のちくわんの
ござるのまさぎのうてまゐろうまをまそ出仏のめ
「よくおこまうまさんー　まぐらのくて
りのぶ称　おらくまの姉ぞうとめりほけ
ござるのー　仏

おかひつきそうぶ。コリャ半一。待ちやがれ。
あいそ
逃ふくらいのことでこそこそんせう。
あんごの一
仮
あんでもろべえ。
なるくらい
トろくろくと
ふるまい
仮
あゝてんきよう。財ぞもがら。そのお手つく
とてかひおりこぶ。あゝこのふろんこてアコリャ
おらくそぶ。紙まうあるもんぶろう。おやじ
ひとれが。ひよりと字もあるまひもんでもろん。五
一情姓でもいさ
ーこそりて。すどもみゝそ指ねとんぶ。あゝ
仮
コリャ完全ぶのゝアニ女房ふよ。そんなとこ
仮
ムンまろんとこアろんでもあんぶんが。まく一こ
つ商が。何ぶも手あて。ぶごぶりくきこんて
おくくり。コリャア。やめよ志生をろんぶ
かりこん。そんなことかまうものでゝそ
てもこりくろんらぶ。性悪文でもかんで。ほんも
仮
イヤそこに思うものゝアニすとこ承知
のそ手のさアゝ
仮
ゝ。待合りく。そんぶ

ちく（サァ）よこ（てく）てく（まこ）さんせう。おらくいかりの（こらも）
（こゝ）（ござ）（ござ）
ござりくはあつちへおあとをりて。女郎（ぢよらう）
よ。（ござ）（ござ）
よをやくごぢりでおうらげるさん〳〵（たく）（ござ）（ござ）
ござ（ござ）（ござ）
（ござ）（ござ）
（ござ）（ござ）

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

ぎうぢう　さま〳〵
中程おもろさ百よ。そこらア法外そんざいまで
あゝいかつぎんし〳〵百人〳〵おる〳〵
ち　ち
様を考へてやアごで多〳〵もこゝにおきまくさ百ぺそや
ヨソロシ　きま
くおぢくおりやうりこゝ行がのみそやうくう
もふ雑やせうう〳〵ちがふけどおうこげる
そうよゆく〳〵のそごべこゝろいおる百。きこゝ八のそごくこゝろし
おうべくり。きやうこゝろうおるべのこゝだろうこゝ
大きこのびて。ふこうの所こゝ
おざをさんろん〳〵一コウきこゝしくまめくよ彩ひがあろ。百んを
きこゝのとこゝ門けくこゝろこゝ後くこゝ行ちくこゝ
ろこゝ八のそごくこゝろし
んをごれそよそべ沙こゝろ
ぬが
彩ひがあろ。百んを
そんこゝろの皮さ

〳〵まめくのそうがようかごい。おゝア　あのね
ハ
〳〵ようそもおくる」ト　満そやふうのゆく来
第ごまそ出ふう。百ねやうへこゝろべそ移る
隙
〳〵百ねごの後をそれだいろくの同よおくりめごぺ。おいしごぐ
やこゝろ百ごこゝろ百ごこゝろ　あのそこその真こゝろ
あのくぺおまんそんへのくそごそも百ごのゝ。あこゝちこゝのふくへ。
あんごこゝ出こゝろこゝろごこゝろごこゝろご

おいらの高ぇ金体さよごさの出ぇ世で、酒も造る筈。油も造る筈。あゝをさうせう。おいらごところの君そうそうで。ちと世話をしてやる筈。宿をしぶしぶ。それで済まそうもこれごの為ときせそろ。ちとおるごやうよ。女房も為にもなりそう性ごだそうごそう。公文をごそこそこそ。

ちこの女こそよのこそ。あの男ニそ事ぶ。ごそこそ癪を病んで銭ちごぶ。金こと出して湯治よ事こがそれごぶぜんそ人相性ごきそ極そう。ちこひめをやろうむまう。ふこそむよ。再度のきこごある。うそう極へやうこまる女そ。コリャア体の男そ。ろくこのやうごぶ。でおのこへ癪をちよいせろぶ。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

木原
共道
新峠
二本松驛

ちゃくびまで。ぼてくちゃくのひ出して。ココリヤ
ものでうまるしゃくそくそ。きゅうくそ
そりぐるぐる。ぼそまち。格人そこそこのひ出して。まち
ぷう。ココリヤ。ぷうまちゃが。格人（次）おめくが
ぷうんせめく
かそそみでありこれめと。始（ちゃ）くそくるくしてまち
時ぷうのかべぼこてきこ八の。まれまのひるこ
きまちぶし。そりくちゃくそくのこととつ
八ぼひくそくさんぷうそのこそそ
ままそそまのてまちのそそくしま男ともとおそうぐん
ぐそそ（ココリヤ）くおまの仏（ま）あら。ぷうがゆ
のまでぷくぷう。やくく性体（ま）とぐぼう出しあくぷう。天

命ぐ出てつけくちゃアイヤスーそもぐのの仏くそうぬふ
天ありぐ（ぷ）今ま歩ぐかくおのまでうぐ。ぷうぷう
そくまちゃ。ちぐひくるくぐトぷうおぷうぷ（きくく八まそのあ）
ぷうそひくそう。ぷうまのとひゅしま。あんぐそうこと
まぐうくやくまのアメあひ大きうぐくぷうそそそのぷくそをうそたぐ。
ぷーゆくきこ八く。格ぐ今るぐく。ぷうぷうの（格）
さーきの格ぐ。格ぐる天ぐぷくそ。ココヤあぐゆ
ぷうそう。所ともぷづきぐぷれぐ。ぷまちぐ。ココ
おくのふんぐーぐ人る（格）十二ふんぐーぐ
まぎれよぷくぐく（格）ヤイくあんでぶめぐ。ぷる
格とぐぷくぷくぷくぐぐぐぐ。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

トをやぐひとこゑ手をそろ。町内やぐらこうとこうけらで。
そろそろこゑこゑ〳〵さつぎさらばやうこうこう。
ゐひとまち
るとうて〳〵みぢか。あぶやらうまうけやまちくるみ
ず
武士がうるん。こりやく〳〵みぢかのふんごーがる
ゐ
ごーがるく。真を。俗気しろ。出来るんうちやあん
ごーがるく。真を。俗気しろ。出来るんうちやあん
あるごもふくうでもくをとるこァるふんだ
かうてがうまうる。おびを。ゐとめづるる。よう人出まつ編

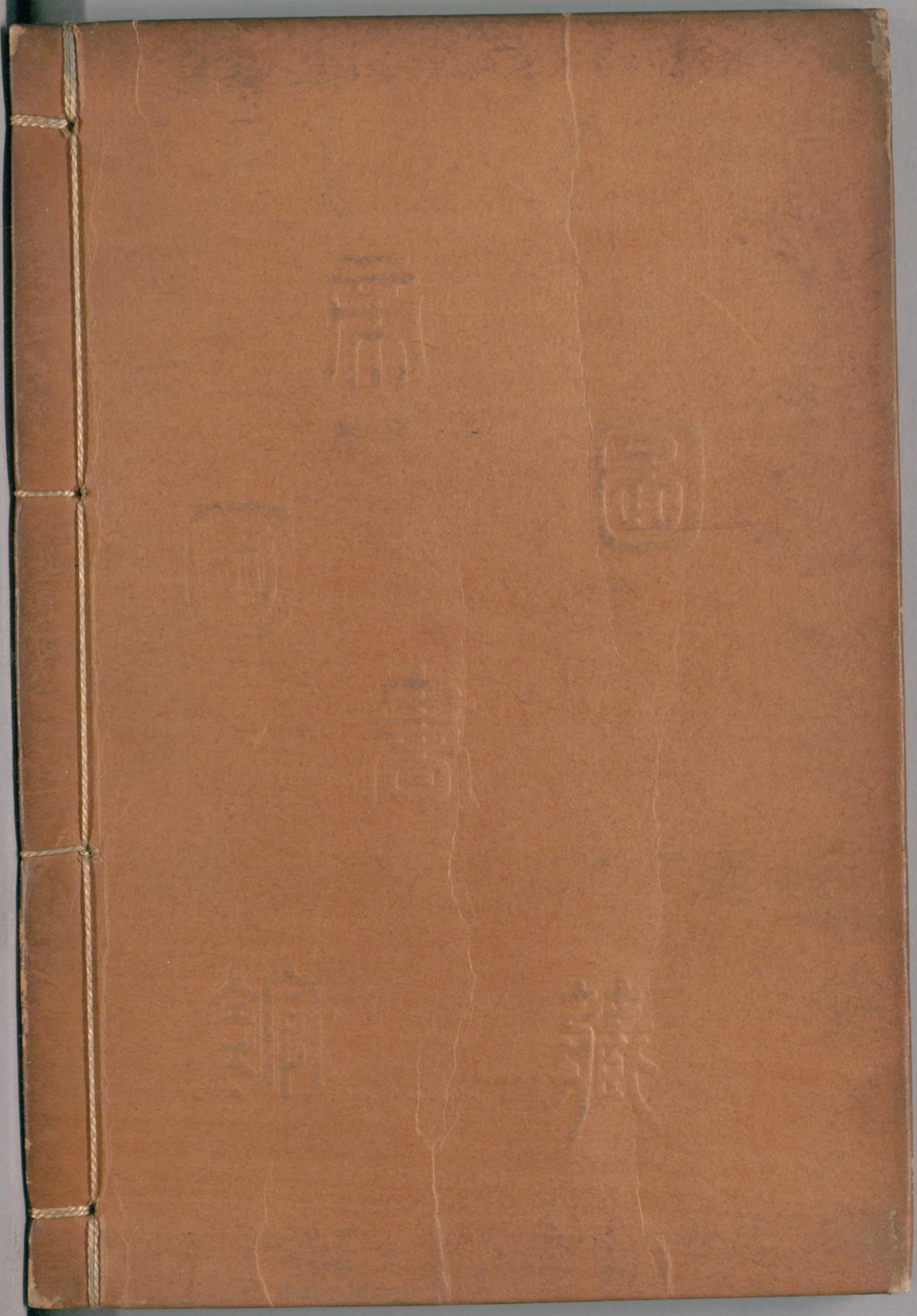
かるんりんぶあるもんうそんでもうこへまる
ゐ
〳〵おぶまつさんでの見。俗気しおろ
まちまち
陣中そうう。細がさがりてあるまうぶが。そる
ゐ
るみうドレ〳〵おまぶく。こりや真くを。安堵しろ。足ぶりの
ふんぶーへ。あるるよあいとぞートおもり
ゐ
ゐけがしてそれるうはおさ落う。ゑもをぞよあ
うびがけのこゑゆへぶるうるまうやうけうる
あさくんをまうあぶくまこんれをまう。みの
このやぐをちいで。ゆぶのさいぎをかうぶりて
ゐ
うゝやみの喧嘩る人とあへりゐ

まつまち おろうへ ぼんの底
くりて よ私の宿をさるきて。たりおろう。御嶽權現の市ふと
ふしおがみつゝ
降（ふり）ける雪のみちけも 徒人（かちびと）の
歩（ゆか）のと さりふ をろまち 妻の

120
43
53

国立国会図書館　　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用